



新春を迎えて

愛知県知事 大村秀章



あけましておめでとうございます。
新たな年が、県民の皆様にとりまして素晴らしい1年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

昨年7月、ついに、世界トップレベルのグローバルアリーナ「IGアリーナ」がグランドオープンを迎えました。また、昨年は、「ジブリパーク」が開園から3年を、「STATION Ai」がグランドオープンから1周年を迎えたほか、テクノロジーの祭典「TechGALA Japan 2025」、愛知万博20周年記念事業「愛・地球博20祭」、3年に1度の国際芸術祭「あいち2025」を開催するなど、国内外から多くの方が愛知を訪れ、賑わいと笑顔に溢れた1年となりました。

「ジブリパーク」や「STATION Ai」を始め、これまで積み上げてきた愛知の力と、「IGアリーナ」など新たに加わった力を原動力として、世界と大交流しながらダイバーシティを生み出し、愛知の更なる飛躍に繋げてまいります。

さて、今年は、9月にアジア最大の平和とスポーツの祭典「第20回アジア競技大会」が、10月にはアジア最大の障がい者の国際総合スポーツ大会「第5回アジアパラ競技大会」が、いよいよ開幕を迎えます。

両大会は、アジア各国・地域との交流を深めるとともに、愛知・名古屋の魅力を世界に発信する絶好の機会でもあります。

県民の皆様と一緒に、両大会を大いに盛り上げ、愛知を更に元気にしていきたいと思っておりますので、一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。

2027年の「アジア開発銀行年次総会」、2028年の「技能五輪国際大会」など、今後も、愛知を元気にし、日本を元気にするビッグプロジェクトが目白押しです。

目まぐるしく変化する世界の情勢に的確に対応しながら、これらのプロジェクトを着実に進め、日本の成長を牽引してまいります。

もちろん、こうした取組とあわせ、喫緊の課題である人口減少・少子化対策を始め、社会基盤整備や農林水産業の振興、教育、女性の活躍、医療・福祉、感染症対策、環境、雇用、多文化共生、防災・交通安全、東三河地域の振興など、県民の皆様のご生活と社会福祉の向上、次代の愛知を担う「人づくり」にも全力を注いでまいります。

引き続き、「日本一元気なあいち」、県民の皆様すべてが豊かさを実感できる「日本一住みやすい愛知」、すべての人が輝き、未来へ輝く「進化する愛知」の実現を目指し、全力で取り組んでまいりますので、一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

2026年元旦

理事長あいさつ

愛知県母子寡婦福祉連合会 理事長 山本広枝



新年あけましておめでとうございます。
皆さまにおかれましては、健やかに新年をお迎えになられたことと、心よりお慶び申し上げます。

また、平素より、ひとり親家庭・寡婦福祉事業の推進に温かいご理解とご支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年は、能登半島地震や豪雨災害など、全国各地で大きな自然災害が相次ぎました。被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

また、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表されるなど、愛知県においても、防災・減災への備えの重要性を改めて認識する一年となりました。当会といたしましても、災害時に特に声を上げにくい立場にある妊婦、乳幼児、子ども、女性の命と暮らしを守る視点を大切に、学びと備えに取り組んでまいります。

さて、当会では、東海学園大学健康栄養学部 中出美代教授のご協力のもと、「ひとり親家庭の食習慣・睡眠習慣に関するアンケート調査」を実施いたしました。その結果、朝食を毎日食べている方は約6割である一方、主食・主菜・副菜がそろった朝食をとれている方は1割程度にとどまり、子どもと一緒に朝食を食べている方も3割に満たない状況が明らかになりました。

また、就寝時刻が深夜に及ぶ方が半数を占め、約6割の方が「十分な休養が取れていない」と感じておられることが分かりました。

こうした生活の背景には、仕事に加え、家事や育児を一人で担うという、ひとり親家庭ならではの厳しい現実があります。

アンケートでは、「疲れやすい」「ストレスを感じやすい」といった声や、子どもの生活リズムに関する悩みや不安も多く寄せられました。これらは、決して個人の努力不足ではなく、構造的な困難の中で懸命に日々を支えておられる結果であると、私たちは受け止めています。

留まることのない物価高騰の追い打ちによる経済的な厳しさに加え、心身の負担が大きくなっているひとり親家庭・寡婦家庭が少なくありません。

だからこそ、愛母連および各地区母子寡婦福祉会は、「困ったときに頼っていい場所」「ひとりで抱え込まなくていい場所」として、経済的支援にとどまらず、つながりや安心を届ける存在であり続けたいと考えています。

また、施行を直前に控えた民法改正に伴う養育費制度の見直しや共同親権の導入に向けては、子どもの最善の利益が何よりも優先される制度となるよう、引き続き要望活動を行ってまいります。特に、DVや虐待のおそれがあるケースにおいては、慎重かつ丁寧な対応がなされることを強く求めてまいります。

最後になりますが、本年も、行政・関係機関・団体・個人の皆さまとのつながりを大切にし、その力を糧として、ひとり親家庭・寡婦福祉の充実と活動の活性化に取り組んでまいります。

本年が皆さまにとって、少しでも心が軽くなり、笑顔が増える一年となりますことを心より祈念し、引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。